

令和３年度 府中町立府中中央小学校 学校自己評価表【最終評価】

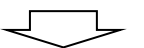
学校教育目標	自ら伸びる	経営理念 ミッション・ ビジョン	「学校は子どもが育つ土壌である」 言葉の中核とした授業づくりや行事づくりを通して、地域とともに、言葉に出会い、言葉を深め、児童自ら豊かな言葉のつかい手として成長しようとする土壌を耕します。
--------	-------	------------------------	---

ビジョン（中期経営目標）実現に向けての現状（進捗状況）と今年度の位置付け	配慮を要する児童の姿から生徒指導体制及び特別支援教育体制の整備を図るとともに、自己認識力（人と比較するのではなく、自分の弱さも理解しながら自分自身を認め、伸ばしていこうとする力）を高めつつ、「言葉」を中核とした教育活動を創造していく。
--------------------------------------	---

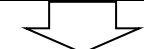
評価計画（中期経営目標を設定して１年目）

A 中期（３年間） 経営目標	B 短期（今年度）経営目標	C 目標達成のための方策	D 評価指標	目標値 （％）	E 評価結果			
					（ １０ ）月		（ ２ ）月	
					達成値	評価	達成値	評価
「豊かな言葉のつかい手」の育成	a 語彙力を鍛える	・読書タイムの工夫等、読書活動を推進する。 ・帯タイムで語彙に係る指導に取り組む。 ・月１回俳句や詩をつくり、校内掲示や校内放送等で発信する。	・目標冊数の達成率（１年間） （低 60 冊・中 45 冊・高 30 冊）	１年間 90％ （上半期 50％）	67.3％	A	79.4％	B
			・単元末テスト（言葉）の達成率	90％	92.1％	A	91.1％	A
	b 表現力を育てる	・国語科の物語文を通して、言葉の面白さに触れ、言葉を大切にする学びを創造する。	・表現力を問う単元末テスト（記述問題）の達成率	85％	89.6％	A	90.6％	A
	c 自己認識力を高める	・行事づくり等を通して、自らの育ちを振り返る場を設定する。	・児童アンケート「自分のよさを知っている」「自分の弱さを知っている」「今がんばりたいことがある」の肯定的回答の割合	80％	83.4％	A	80.7％	A
			・各学年で取り組んだ教育活動の振り返りの肯定的な記述	80％	83.7％	A	96.2％	A
	d 教職員の充実感の向上	・月１回の企画委員会及び学年主任会で「業務で得られる充実感」について振り返り、改善を図る。	・「日々の業務の中で充実感を得られている」の肯定的回答の割合	90％	85.3％	B	85.7％	A
充 方 実 の し 推 た 進 働 き			・教育活動の満足度（保護者アンケート）	85％	94％	A	92.8％	A

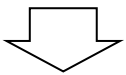
評価基準…A：目標達成（９５％～１００％）B：おおむね達成（８０％～９４％）C：もう少し（６０％～７９％）D：できていない（５９％以下）
目標値を１００％として、達成率を計算する。「例 目標値８５％→アンケート結果９２％ →目標値を超えているので評価はA」



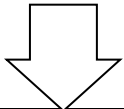
F 結果の分析・解釈（中間 １０月）			
a ○１年間の目標冊数に向けての現状は次のとおり。 １年平均 63.0 冊 105％ ２年平均 30.8 冊 51.3％ ３年平均 32.0 冊 71.1％ ４年平均 31.3 冊 69.6％ ５年平均 16.1 冊 53.6％ ６年平均 16.0 冊 53.3％ 学校平均 67.3％ ４月～９月で半年分の 50％を全学年達成していることから、上半期の目標は達成。読書貯金通帳の取組が功を奏したと考える。 語彙に係る指導については、４月～９月までの単元末テスト（言語）の達成率は、学校平均で 92.1％であり、目標値を 2.1 ポイント上回っている。帯タイムで言葉の特徴や使い方に関する事項を取り入れている。また、毎月全児童が俳句をつくり、給食放送の「じまんの俳句」で紹介するなど言語活動の充実を図っている。 読書量の個人差と学校全体での語彙力向上の取組の系統立てが必要である。	b ○各学年の物語文のテスト平均値 １年 87.7％ ２年 95.2％ ３年 87.0％ ４年 92.5％ ５年 84.7％ ６年 91.0％ 全学年平均は 89.6％。目標値を 4.6 ポイント上回った。４月に理論研、６月と９月に研究授業を実施し、言葉を大切にした国語科教育を創造する意識が教職員の中に高まってきたことが１番の成果である。学年部で日々の国語科授業について交流する場面も増えつつある。言葉を大切にした学びを創造していくために、具体的な手立てを学校全体として確認し、実践していくことが必要である。	c ○児童アンケートの結果 ・自分の良さの認識 75.7％ ・自分の弱さの認識 84.7％ ・今頑張りたいことがある 89.9％ ３項目の平均は 83.4％と目標値を 3.4 ポイント上回っているが、自分の良さの認識が目標値を下回っていることが課題である。自己認識力の客観的な見取りを検討していく必要がある。 ○振り返りの肯定的な記述結果 にこにこ学級 75.0％ １年 93.3％ ２年 83.6％ ３年 76.7％ ４年 97.0％ ５年 80.0％ ６年 80.0％ 全学年の平均は、83.7％で目標値を 3.7 ポイント上回っている。全校での行事が難しい中、各学年での取組の価値を学年全体で共有できるかが課題である。	d ○保護者アンケート「本校の教育方針や教育活動には満足している」肯定的回答は 94％。目標値を 9 ポイント上回っている。コロナ禍で保護者が児童の教育活動を直接参観する機会がない中、学校だよりや HP、日々の担任との連携等により学校を温かく見守ってくださっている結果と考える。制限のあるコロナ禍でも児童の成長を保護者が実感できる行事の在り方の検討が求められる。 ○教職員の業務で得られる充実感に係る肯定的回答は 85.3％。目標値より 4.7 ポイント低い。学年主任を中心に学年ノートや計画表を共有するなど見通しをもって学年経営を行ってきたが、配慮を要する児童に係る情報を共有するなど、個人に負担が偏らない働き方を構築する必要がある。



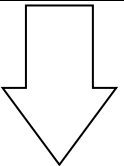
G 改善方策案			
a ・国語科の学習に関連した本を紹介するコーナーを作ったり、町立図書館からの一斉貸し出しを利用したりと本に触れる機会を増やしていく。 ・効果的な語彙力向上の取組を系統立て、全体計画を作成する。	b ・国語科授業において、自分の考えをもたせる「一人学び」の時間を設定するとともに、「一人学び」の手引きを作成し、主体的に学びに向かう児童を育成する。 ・児童が本気で考える「問い」について研究する。	c ・「自分のよさ」を認められるよう、各学年の山場となる取組で評価する場や方法を工夫する。３～６年では「学校楽シート」（評価シート）で自分の成長を見つめ、キャリア教育につなげていく。 ・全校での行事が難しい中、各学年での取組の価値を学年全体で共有する場を設定する。	d ・教育活動の各学年の山場を創造し、保護者や地域へ発信していく。 ・コミュニティ・スクールのサポーター活動を推進し、地域とともにある学校を創造する。 ・学年部や分掌部の業務の見える化を図る。（中央小ナビ作成） ・相談のしやすい風通しのよい職員室づくりに努め、相互の悩みを共有する場を設定していく。
学校の大きな方向性に照らして： 豊かな言葉のつかい手を育てる学校の有りようを教職員で共有し、自ら伸びたと実感できる山場を創造していく。 ・学習発表会「響けよ言葉 届けよ思い」のオンライン発信 ・授業における一人学びの設定 ・「問い」に係る協議 ・コミュニティ・スクール活動による読書環境の整備			



F 結果の分析・解釈（最終 2月）			
a ○各学年の読書冊数の結果 （各学年の目標冊数を達成した割合） 1年 93.5% 2年 76.8% 3年 94.7% 4年 96.7% 5年 64.9% 6年 50.0% 学校平均 79.4% 特に高学年の達成率が低くなった。高学年になるほど図書の時間を割くことが難しく、読書に意欲的でない児童への声かけがうまくできなかったことが原因であると考えられるが、どの学年でも、国語科の学習と関連した読書コーナーを設けたり、読書貯金を活用して読書への取り組みを児童に意識させたりすることができた。 語彙に係る指導については、単元末テスト（言語）の達成率は、学校平均で 91.14%であり、目標値を 1.14 ポイント上回っている。こちらの取組でも、各学年の国語科の学習に関連した指導を帯タイムで取り入れたり、文章を書いて表現する取組を実践したりするなど、1年間の取組を生かしての実践が積み重ねられた。	b ○各学年 単元末テストの平均値 1年 91.5% 2年 96.4% 3年 88.8% 4年 84.3% 5年 92.0% 6年 91.1% 全学年平均は 90.6%。目標値を約 5 ポイント上回り、前期よりも 1 ポイント上回った。2 学期以降は、緑ヶ丘小中連携研究会や校内研修を計 4 回実施した中で、「一人学び」の時間を確保することにより、児童自身が自ら考えることができた。また、教師も言葉を大切にした授業を行おうとする意識が高まりつつある。来年度の課題として、問いを大切にした国語科授業について研修を引き続き行う必要がある。	c ○児童アンケートの結果 ・自分の良さの認識 71.5% ・自分の弱さの認識 82.6% ・今頑張りたいことがある 87.9% 3 項目の平均は 80.7%と目標値を 0.7 ポイント上回っているが、1 学期末より 2.7 ポイント下がった。PCでの個人回答による難しさもあるようだが、児童の実態に応じた分かりやすい評価が必要である。 ○振り返りの肯定的な記述結果 にこにこ学級 94.0% 1年 100 % 2年 93.0% 3年 100 % 4年 97.5% 5年 100 % 6年 89.0% 全学年の平均は、96.2%で目標値を 16.2 ポイント上回っている。各学年、「山場」を意識した取り組み（発表会や野外活動）が功を奏している。	d ○保護者アンケート「本校の教育方針や教育活動には満足している」肯定的回答は 92.8%。目標値を 7.8 ポイント上回っている。2 学期に見通しをもった教育活動の展開ができたこと及び学校行事や各学年の山場を創造することで保護者が子供たちの成長を実感することができた結果であると考えられる。また、コミュニティ・スクールのサポーターさんが、各学年の学習活動に参加され、子供たちの授業の姿を見ることにより学校の取り組みを理解できたことも大きな成果である。しかしながら、「コミュニティ・スクールの一員として、教育活動に参加し、子供と学び合おうと考えている」においては、前回のアンケートより 10 ポイント下がっている。保護者に HP やコミュニティ便りで活動内容を発信し、周知を努めた結果、活動内容がよく分かり、理解度が高まったことにより、参画できていないことを認識したことも要因ではないかと分析している。ただし、コミュニティ活動に参加する人数は増加している。 ○教職員の業務で得られる充実感に係る肯定的回答は 85.7%。目標値より 4.3 ポイント低いが前回より 0.4 ポイント増加している。慣れない業務の多様化など負担となっていると考えられるが、中央小ナビの活用により、業務の見える化が図られつつある。



G 改善方策案			
a ・読書貯金通帳の取組について、今年度の実践をもとに、より児童の実態に合わせて活用しやすい形態を考えていきたい。 ・帯タイムや授業での指導内容について、次年度の研究主題と関連させながら、取組の在り方を考えていくとともに、学校全体での系統的な指導内容になるよう、精選していきたい。	b ・国語科の授業を中心に、児童自らが学びたくなる授業を行うために、問いを大切にした授業作りについて、授業研究を中心に研修を行っていきたい。 ・子どもたちの語彙力を高める取り組みとして、学校全体で系統的な指導内容を考え、実践していきたい。	c ・2 学期末から 3 年生以上で取り組んだ「学校楽しいーと」を活用し、自己の変容を客観視する力を養いたい。 ・はちの子デーやはちの子祭り、修学旅行、野外活動、学習発表会と「山場」に向けての取組や評価が児童の自己認識力を高めることが明らかなので、児童にとって主体的な取組となるよう学年会、分掌部会を充実させたい。	d ・気軽に且つ安心して、コミュニティ活動に参加できる取組を考案していく。 ・分掌部会において、今年度の取り組みをもとに次年度の学校行事や教育活動を見直す。また、分掌部の役割を明確にし、メンター制や主任・副主任制などを取り入れ、機能化させていく。さらに、学年会のもち方などを見直していく。そして、「充実感」をどう捉えるのか、どのような時に得られるのか価値の共有化を図る。 ・全職員が中央小ナビを活用し、見通しをもち業務を行うことができるようにする。
学校の大きな方向性に照らして： ・カリキュラム・マネジメントを「見える化」し、「問い」を大切にした教育活動を充実させる。 ・「豊かな言葉のつかい手」の育成に向け、語彙力・表現力の向上を目指し、「問い」を大切にした授業改善を行い、授業の質の向上を図る。 ・「豊かな言葉のつかい手」の育成に向け、自己認識力の向上を目指し、児童が主体となる山場（行事）を創造し、生徒指導の内面化を図る。			



学校関係者評価を受けての改善方策（修正）
学校の大きな方向性に照らして： 今年度の学校自己評価に対して、学校関係者評価では、全体を通して概ね「適切である」との評価であった。したがって、学校が作成した改善方策（上記 G）に基づき、次年度の学校を運営していく。本校のコミュニティ・スクールの強みを生かしながら、「問い」を大切にした教育活動を創造することで、児童・教師・保護者・地域の方々の当事者意識を醸成し、学校の信頼度を高めていく。